

「行為に関わる」研究, アクションリサーチの学問的厳密性を裏づける

[評者] 中村恵子 札幌市立大学副学長・看護学部長

現場の学としてのアクションリサーチ

ソフトシステム方法論の日本的再構築

内山研一 著

A5 判, 400 ページ

定価 5750 円(本体 5500 円+税 5%)

白桃書房 TEL. 03-3836-4781

現場の学としての
アクションリサーチ

ソフトシステム方法論の日本的再構築

内山研一



白桃書房

400 ページの少々分厚い本である。本書を手にし、著者の内山氏に約3年の間アクションリサーチを教えていただいた頃のことを思い出していた。筆者らは、実践活動を研究したいと考えながらなかなか適当な研究方法が見出せずにいたときに、SSM(ソフトシステム方法論)ベースのアクションリサーチに出合い、人を介して内山氏にたどりつき、教えを乞うた。氏は快く引き受け、頭の固いわれわれに対し根気強く、内容を噛み砕いて何度も何度も説明してくださった。

われわれは当時、モノとコト、思いのモデル、アクチュアリティ(現実性)、CATWOE 分析など、慣れない言葉と戦いながら必死で学び研究を進めた。その当時この本に出合っていたら、もう少し理解が深まり、研究もスムーズだったかもしれないなどと考えつつ、本書の内容を紹介する。

■SSM ベースのアクションリサーチを詳述

アクションリサーチは、研究者が問題状況と直接関わり介入することによって理論と実践を結び付ける、「行為に関わる」研究方法論である。本書はSSMを用いてアクションリサーチの学問的厳密性を裏付けることを目的としている。

全体は理論編(1~7章)、実践編(8~10章)、技法編(11章)からなっている。理論編の第1章はアクションリサーチの背景となる考え方やトピックスを紹介したイントロダクション。第2章は理論的基礎づけとして、アクションリサーチの要となる「行為からの学習」の理論化に不可欠なアクチュアリティ理論などが解説される。

第3章ではSSMベースのアクションリサーチの概観を説明し、第4章では、成功例としてイト

ーヨーカ堂グループの事例を紹介。そして第5章ではSSMのモデル論、第6章では第2章で紹介された理論を踏まえたアクションリサーチの学習理論が詳しく述べられる。

■実践活動を研究をする人に

実践編の第8章ではアクションリサーチの研究および発表のしかた、第9章はアクションリサーチの応用分野を紹介している。第10章では全体のまとめとして、アクチュアリティの本当の意味が示される。さらに技法編である第11章では、SSMを知らない読者のために、その基本的なプロセスが架空の事例を用いて説明されている。

以上のような構成の本書は、理論編から読んで理解を深めるのが正当な読み方なのだろうが、少しでも知識をもっている人なら、実践編、技法編、そして理論編へと読んでいくことをお勧めしたい。アクションリサーチがまったく初めてという人は、内山氏をはじめとする研究者の解説を受けながら学習と実践を進めるのが最も効率がよいだろう。

SSMを用いた研究遂行は容易ではないが楽しいステップであった。実際には7ステージモデルという方法で進めていくが、筆者はステージ1でリッチピクチャー(問題状況を絵で表現したもの)を描き、ステージ2から7まで到達してまた1に戻ってリッチピクチャーを描いたときに、その変化に驚いたものである。まだSSMは初心者であるが、実践活動を研究する際、あらためて本書を片手にチャレンジしようかと考えている。

慣れない言葉に最初はとまどうかもしれないが、実践研究をされる方々はぜひ手にとって欲しい。